

Year: 2007

Location: France

Program: 橋梁

紙の橋



ユネスコの世界遺産に登録されている南仏のニーム近郊にあるローマ時代の水道橋ポン・デュ・ガールの横に、紙管でできた歩道橋を建設した。敷地の状況と、構造的合理性から太鼓橋の形状を選択した。ポン・デュ・ガールの「石」の重く、硬く、そして永久性のある素材感と、「紙」の軽く、弱く、そして一見短命に思われる素材感とのコントラストを見せつつ、「紙の橋」のアーチの形状をポン・デュ・ガールのアーチと同寸法の円弧とすることで、双方の調和が図られている。構造的には、直径115mm、厚さ19mmの紙管と紙管を繋ぐスティール・ジョイントに、ケーブルでポストテンションを入れてアーチをつくっている。